

校 長 武井 正明

親から子へ言葉遣い大切

魚沼市

平澤健一 (66)

會計年度任用職員

魚沼市
平澤 健一(66)
会計年度任用職員

先日、スーパーで買い物をして
いた時、親子連れとすれ違い
ました。カートを押しているお
母さん。そのそばを小学校入学
前と思われる女の子が1人寄り
添って歩いていました。よく見
かける光景です。

まさにすれ違った時のこと
です。お母さんの発した言葉に心
が痛みました。女の子の歩き方
が気になったのでしょうか。お
母さんがわが子に向かって言い
ました。「ふらふらしてんじや
ね」と。

スーパーなどで勝手気ままに
騒いだり大声を出したりしてい
る子を見かけることがあります。
す。そんな時、気になるのが、
そばにいる親の対応です。その
ままにして何も注意しない対応
に心が痛むことがあります。で
も、今回の痛みはそうしたもの
ではありませんでした。「どう
してそんな言い方をするのだろ
う」という驚きでもありました。

学校での子どもたちの言葉遣
いが気になることがあります。
先生への言葉遣い。友達への言
葉遣い。その気になる言葉遣い
を生活の中で日々、親から学ん
でいるとしたら悲しすぎます。

一昨日の日報の投書です。かつて私に「武井さん、一生懸命やってきた者だけに、振り返ると一本の道が見えるものだよ。頑張れ!!」と声を掛けてくださった太先輩の一文でした。

年度当初の職員会議で、先生方に「最大の教育環境は『教師』です」と話したことは過日書きました。

新学期が始まって約1か月。私たち教職員の言動はいかがでしょうか。吉中生徒のひとりひとりを大切にする志が上辺だけのものにならないように、日々精進してまいります。

日頃の言葉遣いやふるまいについて、反省するのは子ども達ばかりではないはずです。
先日の吉中授業参観での、お家の方の参観マナーはいかがだったでしょうか。

教室の外、廊下だからいいのでしょうか。ほんの一部の方ですが、まるでスーパーで出会ったかのように会話をされていた大きな声が、実は教室の中にも響いていたことにお気づきでは…なかったのでしょうかね。中学生たちは心の中で呟いていますよ。「俺たちのこと言えた義理かよ。うっさいな」って。

校長室に相談にいらっしゃるお家の方に、私はよく言います。

「今、お子さんのために真剣に悩んで反省されているのが、十年後、二十年後、三十年後になって感謝の形で何十倍にもなって返ってきますよ」と。

「ふらふらしてんじゃねー」と娘に言った子の親は、自分が年老いて真っ直ぐに歩けなくなった時、我が娘から「ふらふらしてんじゃねー」と叱られますよ。あっ、まだ傍にいただけいいか。その頃は、この娘さんはこんな母親のところにはもう、寄り付かなくなっているかもしれません。気付いたときは、もう手遅れなのです。

言葉は大切です。温かい、その一言が、勇気や元気を与えます。

お互い優しくなれる、力の湧く言葉を掛け合っていきましょう。言葉遣いひとつで、みんながしあわせになりますよ。